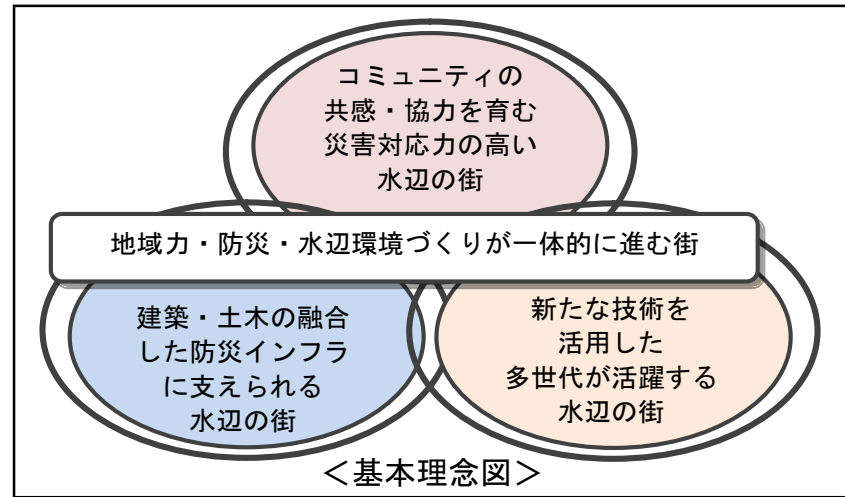


浸水対応型市街地構想（案）の概要

1 基本理念

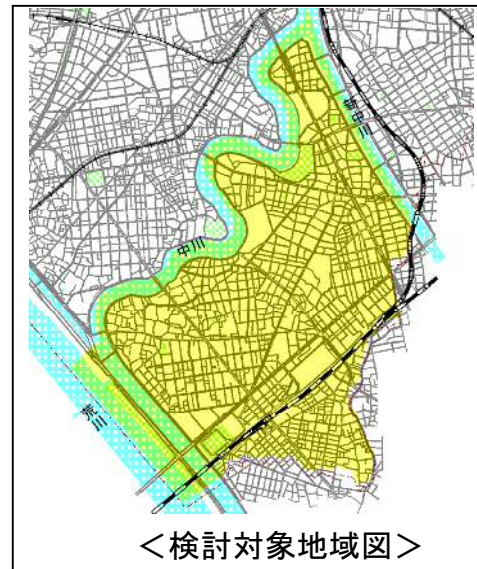
今後高まる水害リスクに、地域力の向上や市街地構造の改善によって対応していくとともに、次世代に引き継ぐ地域の価値を創造するという観点から、3つの基本理念を設定する。



2 対象地域

荒川、中川、新中川に囲まれ、ゼロメートル地域が集中する新小岩・西新小岩・東新小岩・奥戸地域を対象に検討を進めた。

: 検討対象地域



3 浸水対応型市街地と段階的形成

～浸水対応型市街地とは～
大規模水害発生時に、

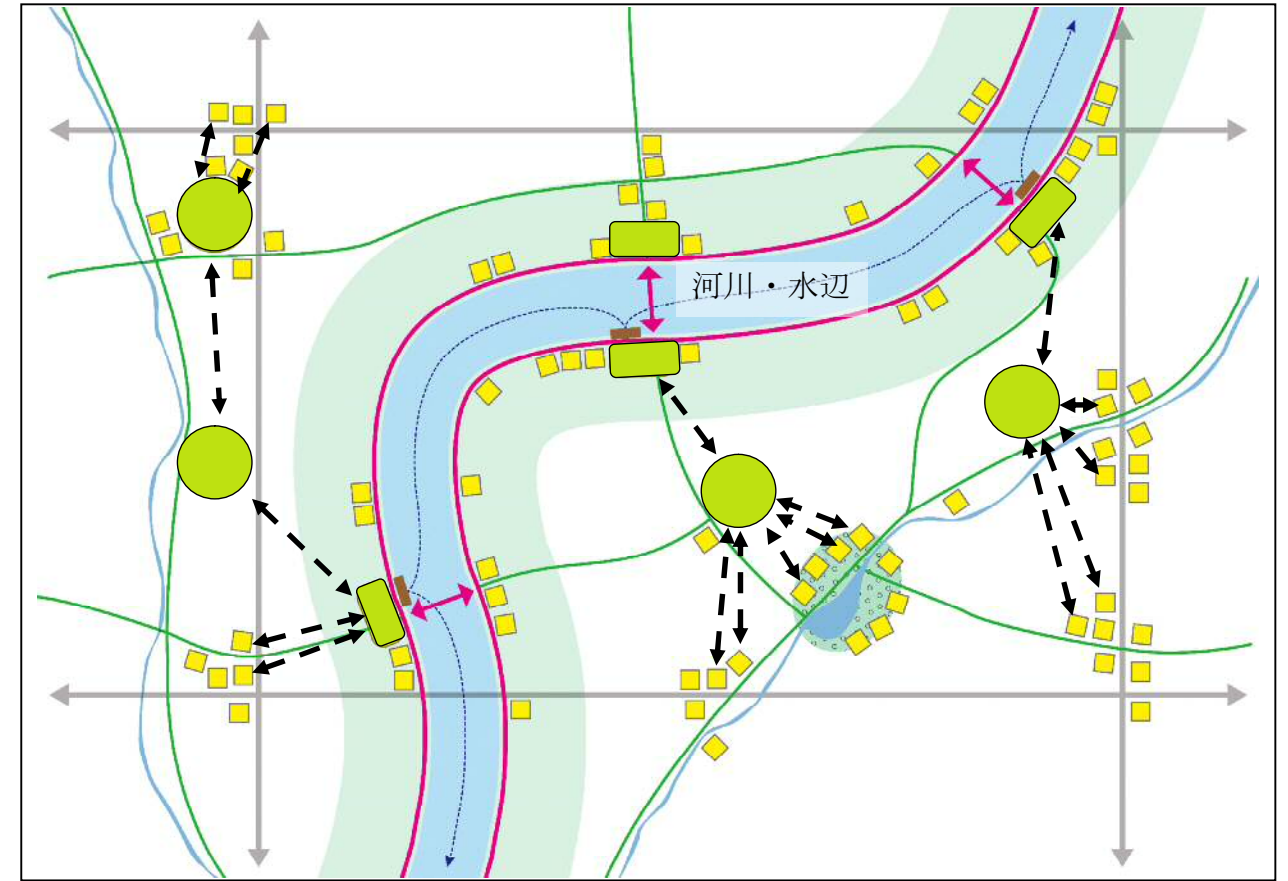
- 1 十分な避難空間を備えている。
- 2 浸水による避難生活が長期間となっても最低限の自立的な生活機能を備えている。
- 3 財産・経済被害を極力抑え、速やかに復旧・復興が可能である。

～段階的形成～



- ・「避難高台」、「浸水対応型建築物」等を組み合わせて浸水対応型市街地を形成。
- ・概ね30年後を目途に、段階的に形成。
- ・最終的には浸水しても大丈夫な市街地を目指す。

4 浸水対応型市街地のイメージ



	高台・コミュニティ拠点 (防災拠点)		
	浸水対応型建築物 (避難ビル)	<ul style="list-style-type: none"> ・非常食 ・飲料水 ・簡易トイレ ・毛布、等 当面の避難生活を支える備蓄を有する避難空間の創出	<ul style="list-style-type: none"> 太陽光発電 定置型蓄電池 自立的なライフライン機能を備えた拠点的な避難場所の構築
	船着き場 (二次避難の拠点)		幹線道路 生活道路
	舟運 (避難者・物資輸送)		橋梁 (人道橋含む)
	堤防上道路 (救援・救助道路)		浸水時、ボート等で移動物資の輸送

※ () 内は、浸水時における施設の役割